

今・四谷の千枚田が熱い!

四谷の

千枚田だよ

第22号

お助け隊大活躍

六月四日(土)、お助け隊は千枚田周辺や滝上の千枚田入り口付近などに全国棚田サミット開催地の「のぼり旗」や「小旗」を立てました。



お助け隊のこうした地道な活動は「お助け隊」の名のとおり、本当に助かります。これで、サミットが一段と盛り上がりを見せます。

夏空に水沸く青田は
まほろばか田螺ねむれる
蛸の泳げる
四谷 小山志子

親子案山子づくり

昨年、連谷小学校の児童達が作る千枚田の学習田で都市から訪れた人たちに愛嬌をまいたり、スズメなどを追っ払ったり遊んだり好評であった案山子を今年も六月四日(土)に親子、お助け隊の若い衆、一般参加の人たちと一緒に作りました。

今年は、全国からサミットに参加する大勢の人たちを迎えるために、きれいなオベベを着せたり、化粧もチョット厚め(ママと同じ)にしたり、それぞれ工夫を凝らしました。ただ、サミットまで厚化粧が剥げないか、着物が褪せないか、心配で心配で...



サミットPR活動in万博

愛・地球博 長久手会場「愛知県館内(あいち・おまつり広場)」で町の魅力をPRするイベント「鳳来の日」が七月十四日(木)、町民四百人の参加により開催されます。このイベントには、我が地元では、別名「可憐に咲き揃う鳳来寺ユリ」とも言われている『千枚田売店の会』の十一名のすてきな女性陣(姥桜)も参加し、いよいよ間近に迫った第十一回全国棚田(千枚田)サミット開催と四谷の千枚田の素晴らしさを十分にPRしてまいります。ご期待ください。



昔の農業体験

愛・地球博 市民プロジェクト(地球の授業において「一粒のお米から考える棚田の風景」が六月一日から瀬戸会場(市民パビリオン)で催されています。

この催しに連谷地区として、九月に開催されるサミットの事前啓発活動として参加することになりました。

- ・実演催事は「米の脱穀」
- ・期日 八月十五日(月)から二十一日(日) 七日間
- ・実演対象 小学生を中心に毎回二十人
- ・実演内容 「はぎ掛け」「脱穀」など昔の作業

練習は六月十二日(日)に参加者全員が「やまびこの丘伝承館」で昔の農具を使って行いました。

〈陰の声：千枚田の野郎んとうは、今でもこんな物を使っておりやあがるなんて言やあせんずらかのん：〉

はねこみ

町指定無形民俗文化財の念仏踊り「はねこみ」が愛・地球博 長久手会場の日本広場で六月三十日(木)・七月一日(金)に行われ、身平橋組の若い衆・中老衆が出演します。

出演の経緯は過去に新城文化会館のこけら落とし、豊橋市公会堂で開催された全国民謡大会のゲスト出演、また、農村アメニティ接待などの実績から、出演に至ったものです。



長久手会場の日本広場は万博の中心的催事場でもあり、政府出展事業で「はねこみ」が世界へ発信できることは未来永劫、語り続ける最高の栄誉だと思います。

千枚田観察会

万博協賛事業 鳳来西部グリーンツーリズムの「寒狭川で川遊び」が七月十六(土)・十七日(日)に開かれます。(募集人員八十名)

内容は「寒狭川生き物観察会」と「四谷千枚田生き物観察会」の二班に分かれて行なわれます。



四谷千枚田では十六日、九時二十分から十三時三十分まで奥三河自然保護研究会員の指導で観察会を行い、その後、布里の「荷互奈」裏川原で二班が合流し、魚取り、筏遊びを楽しみ、夜はサイクリングターミナルでナイトウォッチングなどが予定されています。

詳細は役場産業観光課 TEL0536320511
スタンプラリー
七月十六日(土)、愛知県自然

観察指導員連絡協議会主催のスタンプラリーが四谷の千枚田で行われます。詳細は千枚田の掲示板に表示してあります。

三ヶ日中学からの礼状

二年二組 酒井真輝君 先日は、農業を体験させていただきありがとうございました。ぼくは、千枚田でどんなところだろう胸をはずましてバスに乗りこみました。千枚田につくとぼくが想像をしていたよりもすごい風景がひろがっていてびっくりしました。千枚田についてからの田植えはうまくできるか不安でしたが小山さんのわかりやすい説明のおかげで自分なりに、すこしは上手にできた気がします。田植えの終わったあとの「おにぎり」はとてもおいしかったです。

また、山の上からの景色はとても緑がきれいで印象に残っています。すこしの時間しか体験はできなかったけど田植えの大変さがわかってよかったです。最後に農業体験をさせていただき本当にありがとうございました。

俳句の道

鳳来町文化協会俳句の会と短歌クラブの方達が四谷の千枚田を詠んだ俳句や短歌を景観道やふれあい広場に掲げ、訪れる方達に潤いを与えています。

投句函

連谷に霧立ち上る五月雨
豊明市 河合 満
千枚田初体験の田を植うる
西尾市 深見ゆき子



行 平成十七年六月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二